



一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第133号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：二十四人の瞳
- ・文部科学省令和7年度予算の概要
- ・厚生労働省令和7年度予算の概要
- ・こども家庭庁令和7年度予算の概要
- ・〈新連続講座〉第1回 学びの多様性に応える通常学級の授業づくりー授業UD×UDLの可能性と課題
- ・〈連続講座2〉第12回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・国際学会参加報告：ノーマライゼーションに関する国際会議に参加して
- ・委員会リレー企画 編集委員会紹介
- ・PATIO ～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



二十四人の瞳

九州ルーテル学院大学

増 本 利 信

冬に両親を連れて小豆島に行きました。

1952年に発表された「二十四の瞳」(壺井栄著)の舞台であり、岬の分教場を再現したオープンセットが映画村として保存されています。

大石久子先生の温かく熱心な関わりに徐々に心を開いていく子どもたち。貧しい家庭で育った児童や、引っ込み思案な児童、いたずら好きな児童など様々な個性豊かな一人一人を先生は尊重し育てていきます。成長した12人の瞳に映る景色は時代の荒波に翻弄されていきますが、先生はいつまでも教師として見守り続けています。

この小説に様々な思いを抱き、子どもに関わる仕事を志した方も少なくないことでしょう。その1人である私も初任地は離島にある漁村の小学校でした。今は廃校となってしまったその学校で過ごした6年間は今も鮮やかに思い出されます。子どもたちと燃えたバレー部の指導。土曜日の授業で行った釣り大会、お父ちゃんとのソフトボール、公民館での宴会。若い故にいろんな失敗をして迷惑をかけましたが、それを上回る度量で地

域に育ててもらいました。

時は流れ、学校教育を取り巻く課題として、長時間の過重な労働や、保護者対応の難しさ、ICT機材や多様な児童生徒への対応の負担等が挙げられるようになり、メンタルヘルスが低下し休職を選択せざるを得ない教師が増加している現状にあります。教職を志望する学生が減っていることも懸念され、教員の質の向上は我々大学教員に課せられた喫緊の課題です。

この春、本学に入学した1年次生のクラス担任となりました。24人のフレッシュな学生は小学校や支援学校の教師になりたいという意欲に溢れています。これから始まる4年間で、学び合い、関わり合い、人を好きになり、子どもや保護者に寄り添える教師に育ってほしいと願っています。ブラックと評されることもある学校現場ですが、子どもたちと過ごす日々は豊かで、保護者や地域は教師の味方として必ず支えてくれると伝え続けたいと思っています。

24人の瞳に映る未来の学校が笑顔で溢れていることを願っています。